

# 一筋の道

昭和六十一年五月十二日

## 教会長先生御教話

「信心すれば目に見えるおかげより目に見えぬおかげが多い。知ったおかげより知らぬおかげが多いぞ。後で考えて、あれもおかげであったこれもおかげであったということがわかるようになる。そうなれば本当の信者じゃ」

昨日は皆様のお祈りによりまして誠に有難い御大祭を奉行させて頂き、万事につけてご都合お繰り合せ頂きましたことを厚くお礼申し上げます。

私は、早速親教会に参拝致しました。初代教会長先生は大祭がすみましたら、すぐに島之内教会へお礼参りをなされた。布教当初のことでございますから東天下茶屋から歩いて行かれ歩いて帰ってこられる。帰られたら夜十二時頃になったといひます。その間に前の親先生が一人で後かたづけをなされた。

今、我々は車で参拝させて頂きますおかげで八時頃には帰っています。そして大勢

の奉仕係の方がたちまちのうちに全ての設備を元の状態に戻し、その晩のご祈念までに殆ど片づけてしまわれる。昔のことを思えば本当に勿体なく有難いことです。

今日はお説教におこし下さいました先生の教会にお礼参りを致します。又ご参列下さいました先生の所へ手分けしてお礼参りすることになっております。

この様に初代教会長先生の遺された道を次第にふみ広げて通ることが大事であります。初めは道のついてない所を歩いているうちに段々ふみ広げられ、やがて道になってゆくのです。

開教式もない頃、初代教会長先生がこうしてこの机の前に立たれてお話しして下さいましたお姿は子供であった私の心に強く焼きついております。私はその頃、夜母親と共に参りしていました。小学校一、二年の時の事ですからねむくてねむくてご祈念の始まる迄に寝入ってしまいました。母親が「先生がお出ましたから起きなさい」と、ご祈念が始まると起こして下さいます。その時にはお結界か、ご神前に座っておられる。先生は一体どこから出てこられるのか一度は見たいと思っておったのですがお出ましの時にはいつも寝入っているため、その機会がありませんでした。きつとあのお扉か

ら出てこられるのだと思います。み教えの内容は覚えておりませんが、お扉から出てこられたに違いない先生の神々しさ、崇高な気高さは子供心にひしひしと感じておりました。初代教会長先生がお使いになったこの机（日々の説教机）は永久にのこさなくてはならないと思ひ、六十一年間大事に使わせて頂いています。ぐらつきますので筋交いを入れ釘を打ちつけ使わせて頂いています。

戦後まもなく御本部参拝させて頂いて、真光園という宿屋で休憩していると、同室の人から、

「貴方は伊藤さんと違いますか」と声をかけられた。

「どなた様ですか」と言うと、

「うちの息子が学院で一緒に修行させて頂いた時の写真が家に残っておりますので」と言われた。その息子さんはお国替えになられたのですが休憩所で一緒になった私に色々過去の体験をお話下さいました。

「息子は死に、教会は戦災で焼け、私は信者の家の一室を借りて仮広前にしておりました。その手狭な広前のすぐ側にぬれ縁がありまして、そこに色んな『がらくた』を

積んでおりました。その中に古ぼけた机がありました。ある日、古いご信者がお結界にこられ、『まことにせんえつなことです、初代の先生が布教の当初、みかん箱に白い布を被せてお結界の机にしておられました。幾ら何でも勿体無いと思ひ私の家に取りました新しいお膳を持つてまいりますと、先生は非常におよるこび下され、終生白布を被せてお結界の机としてお使い下さいました。私は勿体無く有難くお結界へ参る度にお礼申しておりました。そのお膳が雨ざらしになっているのを見ました時、何ともいえん感じがいたしました。あのお膳には初代教会長先生のご苦勞がしみついていゝます。信者の身でこういう事をいうのは真にすまんと口を閉ざしておったのですが、今日は辛抱出来ず聞いて頂きました』と平伏してお詫びされた。信者さんにそういうわかれた時、冷汗がザーと流れ、私は自分の信心のいたらん事を神様にお詫びしました』と言われた。

古びた机、これには歴史があるから貴いのです。阿倍野教会のこの机にしても見た目はみすばらしい真にお粗末に感じます。しかし、初代教会長先生のご苦勞のしみついた有難い机であると思ひますと同じ物でありながら値うちが出て来る。頂き方で違



って来るのです。

「信心するものは肉眼をおいて心眼をひらけ」とみ教え頂いていますが、何でも物事の表面だけをみるのでなくその奥をみなくてはならない。これを心眼というのです。すると有難さがわかって来る。物皆そうです。出来事もすべてそうです。ひねくれて考えますと何でも逆様にみえてきます。「よろこびを見つける」という言葉を使います。鶏が何も無いような大地をついばんで餌をあさるように、喜びをみつけて喜び上手になる。物事全て見方によつていくらでもよろこべます。

「信心すると喜べんことでもよろこぶのか、無理やりによるこぶのか」という人もある。それは違う。普通の人がよろこべん事をよろこべるようになって来るのです。これが信心の進歩です。

昨日は五千に近い多数の人が初めから終わりまで静肅に有難く参拝され、解散されたことをどれ程お礼申したとかわかりません。何かの間違いでその人達が烏合の衆と化したら大変なことになります。この九日十日十一日は天皇陛下のご来阪、チャールズ英国皇太子ご夫妻のご訪日等がありました。いずれも表面は何事もなく済んでゆ

きました。がその陰でどれ程多くの人々の懸命な警護があつたかわかりません。何も事なきを得たということは大変有難いことです。

たえず先を見通して色々な問題が起こつて来る中を平穩無事であるようしっかりと祈つてゆかねばなりません。どうすればそうなれるか。

「信心して神の大恩を知れば無事達者で子孫も続き身代もでき、一年まさり代まさりのおかげを受けることが出来るぞ」と仰せられています。神の大恩を知る。即ちお礼参りをしっかりとすることです。これが初代教会長先生以来続けられた阿倍野教会のおかげを頂く一番の根本です。お礼参りに徹底せられた。十二時までかかつて歩いてお礼参りされた。初代教会長先生の遺された道を前の親先生がずっと守り通された。皆さんも共々、この道を守って行けば必ず願ひごとは成就します。

現教主金光様は「世話になるすべてに礼をいう心」とよんでおられる。

我々は人のお世話にならねば生きていけない。植木をはじめ万物のお世話になつて生きています。しっかりとお礼の心を育ててまいりましょう。